

平成29年度 第1回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

平成29年6月1日（木）13時30分から、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：14名 オブザーバー：11名 計25名

○議事次第

協 議 (1) 平成28年度事業報告（案）・収支決算（案）について
（監査報告）

(2) 平成29年度収支補正予算（案）について

(3) 任期満了に伴う役員改選について

報 告 (1) 秋田市中通CCRC拠点整備事業について

(2) 中心市街地商店街活性化支援事業の募集結果について

(3) 芸術文化ゾーン活用講演会の開催報告および活用研究会の設置について

(4) ミュージアム連携情報発信事業について

そ の 他 (1) 「エリアなかいち」での新たな取組みについて

(2) 東北経済産業局からの施策説明

○結果報告

【三浦会長の開会挨拶】

本日はご多忙のところ、ご出席いただきありがとうございます。

さて、皆様ご承知のとおり、第2期中活計画は3月24日に内閣府からの認定をいただき、4月1日から5年間の計画期間がスタートいたしました。

また、当協議会の活動も前回3月30日の協議会で今年度の事業計画・予算をご承認いただきましたので、例年より早くスタートしております。

早速、5月16日には「芸術文化ゾーン」の認識を共有し、ゾーンの有効活用による「新たなまちづくり」を考える「芸術文化ゾーン活用講演会」を秋田市との共催で開催しました。

講演会では、県立美術館平野館長より「アートによるまちづくり」と題して、ご講演をいただくとともに、秋田市から「芸術文化ゾーン」についてご説明をいただいております。

第2期計画では、縣市連携新文化施設の整備や旧県立美術館の活用を中核事業として、既存の文化施設等との連携を図る「芸術文化ゾーン」の形成により、中心市街地の魅力を更に高めていくことにしております。

現在、新文化施設のハード整備が先行しておりますが、芸術文化活動の活発化などのソフト事業と、芸術文化を通じた交流促進や人材育成などのネットワークづくりという3要素が相乗効果を発揮してこそ、芸術文化の薫り高い中心市街地が形成できるものと考えております。

当協議会では、このあと「芸術文化ゾーン活用研究会」を設置し活用方策を検討してまいりますので、関係する委員の皆様には積極的にご参画をくださいますようお願いいたします。

また、第2期中活計画へ掲載しております事業にも進捗が見られますので、後程ご報告をさせていただきます。

本日は、昨年度の事業報告・収支決算および今年度の補正予算についてご協議いただきます。

ご臨席の皆様から忌憚のないご意見をいただきますようお願い申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【委員紹介】

人事異動により、職務執行者に変更のあった委員を紹介した。新任者は次のとおり。

- ・秋田市都市整備部 部長 平山 義尚 様

【内 容】

協 議

(1)平成28年度事業報告(案)・収支決算(案)について、事務局から説明。年間4回の協議会、年間2回の会長会議を実施し、第2期秋田市中心市街地活性化基本計画掲載事業や県・市連携文化施設整備計画等について説明いただいたほか、先進地事例視察、まちなかプロジェクトチームトライアル事業、秋田市中心市街地商店街環境整備支援事業の実施結果および中心市街地商店街の動きについて情報共有を図った旨を説明した。また、収支決算(案)については収支状況の詳細を事務局から説明後、佐々木監事より監査報告があり、原案通り承認された。

次に、(2)平成29年度収支補正予算(案)について事務局から説明。平成29年3月30日に開催した平成28年度第4回協議会にて承認された収支予算の繰越金、ミュージアム連携情報発信事業に係る単価および発行回数に変更となった旨事務局から説明し、原案通り承認された。

次に、(3)任期満了に伴う役員改選について事務局から説明。三浦会頭を会長に再任したほか、会長の指名により、副会長に公益財団法人秋田市総合振興公社の佐藤隆幸理事長、監事に秋田市広小路商店街振興組合佐々木理事長と秋田市都市整備部平山義尚部長の2名を再任した。

報 告

第2期中心市街地活性化基本計画掲載事業の進捗について各事業主体から報告があった。

(1)秋田市中通CCRC拠点整備事業について、株式会社北都銀行地方創生部の赤坂副部長から報告があった。

株式会社北都銀行は、パートナー企業である秋田不動産サービス株式会社が事業主体となって取組む「秋田版 CCRC 拠点整備事業」の実現に向けて、4月17日にミサワホーム株式会社と秋田信用金庫の4者による「秋田市中通 CCRC 拠点整備事業に関する連携協定」を締結した。

また、3月30日に秋田市から「中心市街地共同住宅供給事業の実施に関する計画」として認定を受けており、昨日、市街地の環境改善、良好な市街地住宅の供給等の促進を図ることを目的とした優良建築物等整備事業の補助金申請を行った。

秋田県や秋田市が行政施策として人口減少への対応や高齢者が健康でいきいきと暮らせる街づくりに取り組んでいる中、これまで不動産開発事業、医療、介護・保育などの社会福祉にノウハウを持つミサワホーム株式会社と連携し「秋田市中通 CCRC 拠点整備事業」を進めることで、地域住民が健康でいきいきとした生活を送ることができる街づくりに貢献できるモデル事業と考えている。

中でも、コミュニティーの形成が重要と考えており、その実効性を上げるため、様々な分野の専門家の意見や知見を参考にするため、連携協定を締結した4者をコアメンバーとし、秋田県、秋田市、秋田商工会議所をオブザーバーに迎え、秋田市中通地区まちづくり協議会を4月26日に設置した。今後の進捗状況については随時報告する。

(2)中心市街地商店街活性化支援事業の募集結果について事務局から説明。平成29年4月24日(月)から5月22日(月)までの期間で募集したところ、基本計画掲載事業の実施主体である協同組合秋田市民市場、川反外町振興会、まちづくりマネジメント株式会社の3者より申請があった。

(3)芸術文化ゾーン活用講演会の開催報告および活用研究会の設置について事務局から説明。平成29年5月16日(火)にぎわい交流館AUで秋田市と共催により開催し、113名が参加した。秋田市企画調整課の齋藤一洋課長から第2期中活計画に盛り込まれた新文化施設・旧県立美術館や既存施設で構成される「芸術文化ゾーン」について説明があった後、秋田県立美術館館長の平野庫太郎氏から「アートによるまちづくり」と題し講演いただいた。

活用研究会の設置については、芸術文化ゾーン活用講演会内でも説明したが、エリア内の商店街(会)、大型店等の民間事業者、美術館等の芸文施設ならびに行政団体関係部課を構成メンバーとし、ゾーンを有効活用した活力あるまちづくり方策の研究に着手する。6月20日(火)に第1回研究会を開催し、先進事例視察を含め、年4回の開催を予定している。

(4)ミュージアム連携情報発信事業については、秋田観光コンベンション協会・あきたまちづくり共同企業体協力のもと、秋田市中心市街地活性化協議会で今年度VO1.8となるアートなまち歩きを既に発刊し、好評いただいている。隔月で年5回発行し、現在12ページで構成されているが、ページ数を増やすことも検討している。

その他

(1)「エリアなかいち」での新たな取組みについて、秋田まちづくり株式会社畠山代表取締役から説明があった。

秋田県のプレスリリースにもあるが、秋田まちづくり株式会社は平成29年3月に秋田県立美術館のさらなる利用促進と、「エリアなかいち」各商業施設の活性化を図り、さらなる芸術や文化による交流、中心市街地のにぎわいの拠点となるよう秋田県と連携して様々な施策を実施することを盛り込んだ覚書を締結した。具体的には、なかいちを回遊するとお得なサービスが受けられる内容となっている。商業施設で買い物をしたお客様に対して、美術館入館料が割引となる割引チケットを発行し、美術館に入館されたお客様に対して商業施設で優遇が受けられる優遇チケットを4月28日より発行している。ほかにも藤田嗣治の大壁画「秋田の行事」レプリカの設置について商業施設1階中央エレベーター奥に設置するなど、覚書の締結に基づいて実施している。

なかいちテラスについては、広小路に面したエリアなかいちの三角広場に黒いテントの野外カフェを5月に設置した。テナントと連携し、秋田牛、桃豚ポーク、GRISSINI パンズ、秋田の野菜を使った秋田プレミアムバーガーが目玉となっている。

その他には、ハンギングフラワー設置事業を実施した秋田市広小路商店街振興組合の佐々木理事長からの要請もあり、花のおもてなしを5月20日から開催し、大小合わせて76個のプランターを設置した。5月から11月までの6カ月間を予定している。また、8月からはハンギングフラワーの設置も予定している。

(2) 東北経済産業局からの施策説明について、東北経済産業局商業・流通サービス産業課の鈴木課長より、中心市街地・商店街振興関連事業、おもてなし規格認証2017、IT導入補助金について説明があった。

【出された意見・質問】

芳賀代理（仲小路振興会）

おもてなし認証制度について、審査費用と審査基準はどの程度のものか。

鈴木課長（東北経済産業局商業・流通サービス産業課）

紅色は無料であり、自己の適合宣言により登録が可能。定められた規格30項目中15項目以上が該当していれば良い。

詳細資料が手元にないため、正確にお答えできないが、金色で2万円程度、紺色で10万円程度の審査費用と記憶している。なお、審査基準については、それぞれの色の認証取得に向けて支援させていただく方針である。

佐々木(清)委員（広小路商店街振興組合）

アートなまち歩きは、これまで作られたガイドの中で一番優秀と考えている。観光客への情報発信と少数発行対策としてHPに情報を公開し、冊子にQRコードを付けるなどしてみたいか。

渡邊課長（秋田商工会議所まちづくり推進課）

今年度は 1,500 部印刷し、観光案内所やホテルを中心に 1 カ所 50 部程度を配布している。
QR コードの掲載等ご提案いただいた内容については前向きに検討する。

閉 会